

基本絵

32枚!!

総枚数

108ページ!!

ウチの南米妻がエロ過ぎて
他の男達が放っておかない!



#01 夫とイチャラブSEX

俺は平凡なサラリーマン
顔も年収もそこそこで
誇るものなどほとんどない

しかし、一つ自慢できること
それは…

「ダーリンお帰り〜♡」

ウチの自慢の妻「エレーナ」



海外出張の時に出会い
一目惚れし、その場でプロポーズし結婚した

このドエロイ肉体に惹かれて結婚したと
言っても過言ではないのだが

エロイのは身体だけではなく…



毎晩熱烈な出迎えをしてくれるのだが
今日はいつにも増して積極的だった

「ダーリン会いたかったわ〜♡」

結婚したばかりで2人の関係は熱々だった
キスだけでは飽き足らず…



俺を押し倒し衣服を剥ぎ取るよう脱がせてきた「どっ!? どうした今日はやけに積極的だな!」

「今日はムラムラしちゃってダーリンと早くしたかったの♡ イイでしょ?」

そう言われて悪い気はしない彼女は俺のイチモツに顔を近づけ…



ムチッ♡

ムチッ♡

ビグッ♡

ビン♡

「おっ♡おっ♡」
豊富な身体で押さえつけ
濃厚なディープフェラを始めた
「んふっ♡ダーリンはご弱いの
知ってるんだから♡」

結婚して日が浅いの俺の気持ちイイ所を
把握していた、その容赦ない攻めに思わず
「あッ♡ちよっ♡ちよっ♡と待ッ…♡♡」



あまりの気持ち良さにもの
数分でイってしまった

「あはっ♡こんなに出しちゃって♡
勿体ない♡」



しかし新婚の熱い夜の生活は
これで終わらず…

場所を浴室に2ラウンド目が始まった

「はっ♡♡ダーリンの
好きなパイズリよ♡」

ムチッ♡

ダブッ♡

エサッ♡

スポッ♡

他の男が羨む程のパイズリを
毎晩のようにして貰っていた

その巨大な胸は俺のイチモツはスッポリ隠してしまい
挟まれただけでイキそうになるのだが…

ム

「おっ♡おっ♡」
動かし始めると更に感度は増し
思わず声が出てしまう

「アレ？さっき出した
ばっかりなのにもうカチカチなのね♡」

パンッ♡

パンッ♡

フチャ♡

ヌチャ♡

パンッ♡

巨大な胸の中で弄ばれる感覚は
今にもイッてしまいそうな快感だった
しかし夫の威厳を少しでも
見せるため必死に堪えた

「くっ♡はあ♡」

「うふふっ♡そんな声出しちゃって♡
無理しないでイっっちゃたらどう♡」

パン♡
パン♡

パン♡
パン♡

フチャ♡
フチャ♡

ヌチャ♡
ヌチャ♡

パン♡
パン♡

少しでも長くパイズリを
味わっていったかったが
その甘い誘惑に勝てず…！



「あっ♡スゴい♡2回目なのに
ココまで飛んだあ♡」

エレーナの肉厚な胸から
零れるほどの射精し
浴室ザイメンの生臭さが充滿した

だがここまでは前戯に過ぎなかった…
「続きはベッドでね♡」



寝室に場所を移してプレイを再開した

「あんっ♡ スッゴいい♡」

胸に負けないくらい大きな尻を振り部屋には
肉と肉がぶつかり合う音が響いた



「ねえ♡ダーリン♡私早く
子供欲しいのお♡だからお願い♡」

ヤケに積極的だと思ったらそういうことか
男としてのやゝ雄として雌に
せがまれるのは悪い気がしない
「それじゃあ、ちやーんと
おねだりしてもらおうかw」

「あッ♡お願いダーリン早くう
ザーメン膣内に射精してえ♡」

媚びた甘ったるい声を上げ膣内を
ヒクつかせ射精を促してくる
我が妻ながらイヤらしくて困ったものだw
「エレーナー！出すぞー！しっかり受け止める！」



3度目だというのに濃厚な
ザーメンを膣内に注ぎ込んだ

「あっ♡スッゴい♡
熱いザーメン奥までキてる♡」



しかし俺の性欲はまだ収まらず…

2人の子作りは更にヒートアップしていた
そこに言葉はなく繁殖期の動物のように
一心不乱に腰を振った



そしてしばらくすると俺は限界を迎え
「エレーナっ！もう1発出すよ！」

「はあ♡はあ…♡」
再び彼女体内にこれでもかと射精した
(これだけ出せば大丈夫だろう…)

予想は当たり
この数ヶ月後子どもを授かった

俺はとんでもない幸せものだ
子どもを授かりこんない女の
肉体を独り占めできるのだから
その時の俺はそう思っていた…





#02 夫の友人達と…

ある日の事
俺は結婚報告も兼ねて友人2人を
家に招きエレーナを紹介した

「ハッイ♡
妻のエレーナです♡」



「どっ、どうも」

その後自宅で4人で飲み会をしたのだが…

その日は酒が進み俺は酔いつぶれてしまった

「あらあら♪ごめんなさいね
せっかく来てくれたのに
主人の方が先に潰れちゃって♡」

飲み会はお開きかと思われたが…

ズズズ...

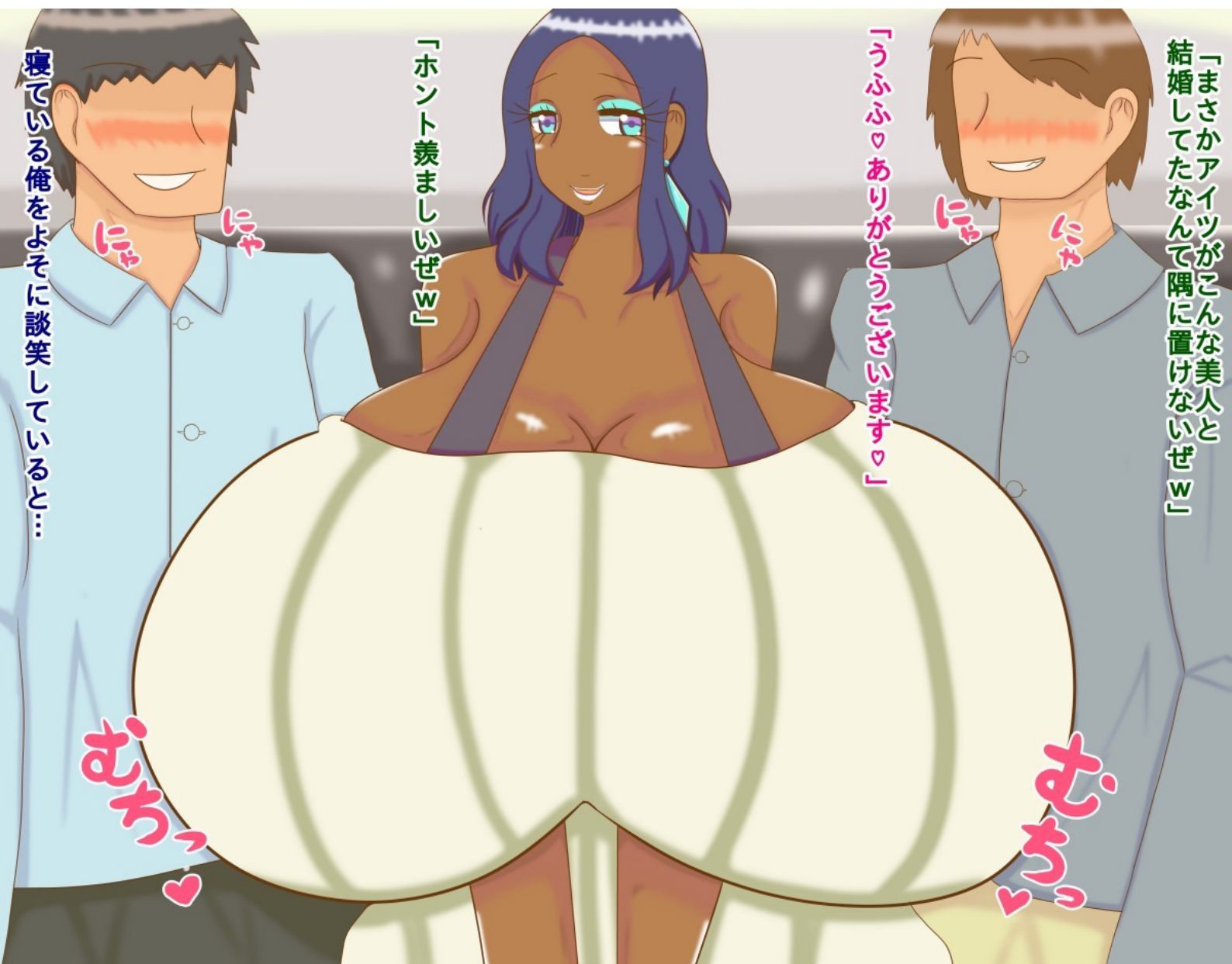


「まさかアイツがこんな美人と結婚してたなんて隅に置けないぜw」

「うふふ♡ありがとうございます♡」

「ホント羨ましいぜw」

「寝ている俺をよそに談笑していると…」

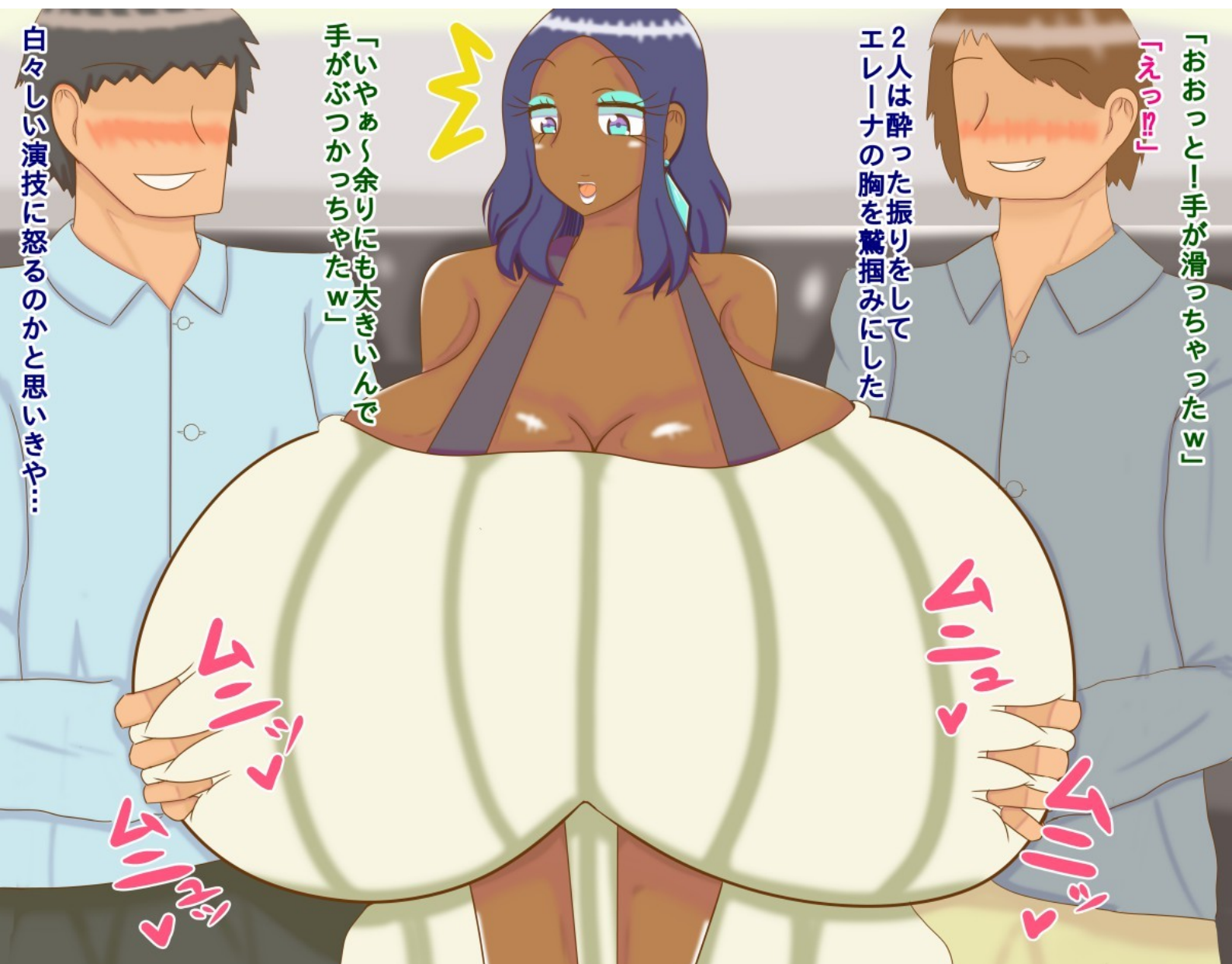


「おおっと！手が滑っちゃったw」
「えっ!!」

2人は酔った振りをして
エレーナの胸を驚掴みにした

「いやあ、余りにも大きいんで
手がぶつかっちゃったw」

白々しい演技に怒るのかと思いきや...



「ふふっ♡スゴい大きいでしょう♡
これだけ大きいと大変なんですよお♡」

「えっ?! ええ!」

意外な反応に2人は
動揺していた
更に!

「服の上からだけでいいんですかぁ♡」

そう言う2人は…

「それじゃあお言葉に甘えて!!」



「スっ！スゲえ!!!」

服を捲り上げ
巨大な胸が露わになった

2人は規格外のバストを
欲望のまま揉みしだいた

それだけでは飽き足らず

「もう我慢できねえ!」

ぶるん♡

むちっ♡

むに♡

むちっ♡

おにゃ♡



2人はチャックを下ろし
欲望のままペニスを
エレーナの胸に押しつけた

「うはっ♡なんだこの柔らかさ!!」

「ふふっ♡2人とも慌てすぎよ♡」

「そういう奥さんだって
ノリノリじゃないですか♪」

そう、彼女は抵抗するどころか
むしろペニスを握り率先してシゴき始めた



「2人ともさつきから私の
身体見てギンギンに
勃起しているの気づいてましたよ♡」

「へへっ♡ばれてましたかw」

「このままじゃ
辛いでしょ♡」

「話が早くて
助かりますよ奥さん♡」

性に対して大らかなエレナ
2人は遠慮なく更にペニスを擦りつけた



「クソッ！アイツこんなスゲえので
毎晩楽しみやがって羨ましいぜ！」

「でも今日だけは2人の
好きにしていますよ♡」

「ホントに奥さん男心を
わかってらっしゃるw」

俺のエレーナの身体を2人はまるで
自分の物のように堪能し始めた
そして…

「あッ♡やバいもう出るッ♡」



「おっ♡おお…♡」

2人はエレーナの胸
目掛けて勢いよく射精した

「あらあゝ♡スゴい♡
こんなに出しちゃって♡」

「おっ！奥さん最高だよ!!」

「ありがとうございます♡
でもお♡オッパイだけで
いいんですかあ♡」

「えっ?! そう言くと…」

2人は驚き今度は…

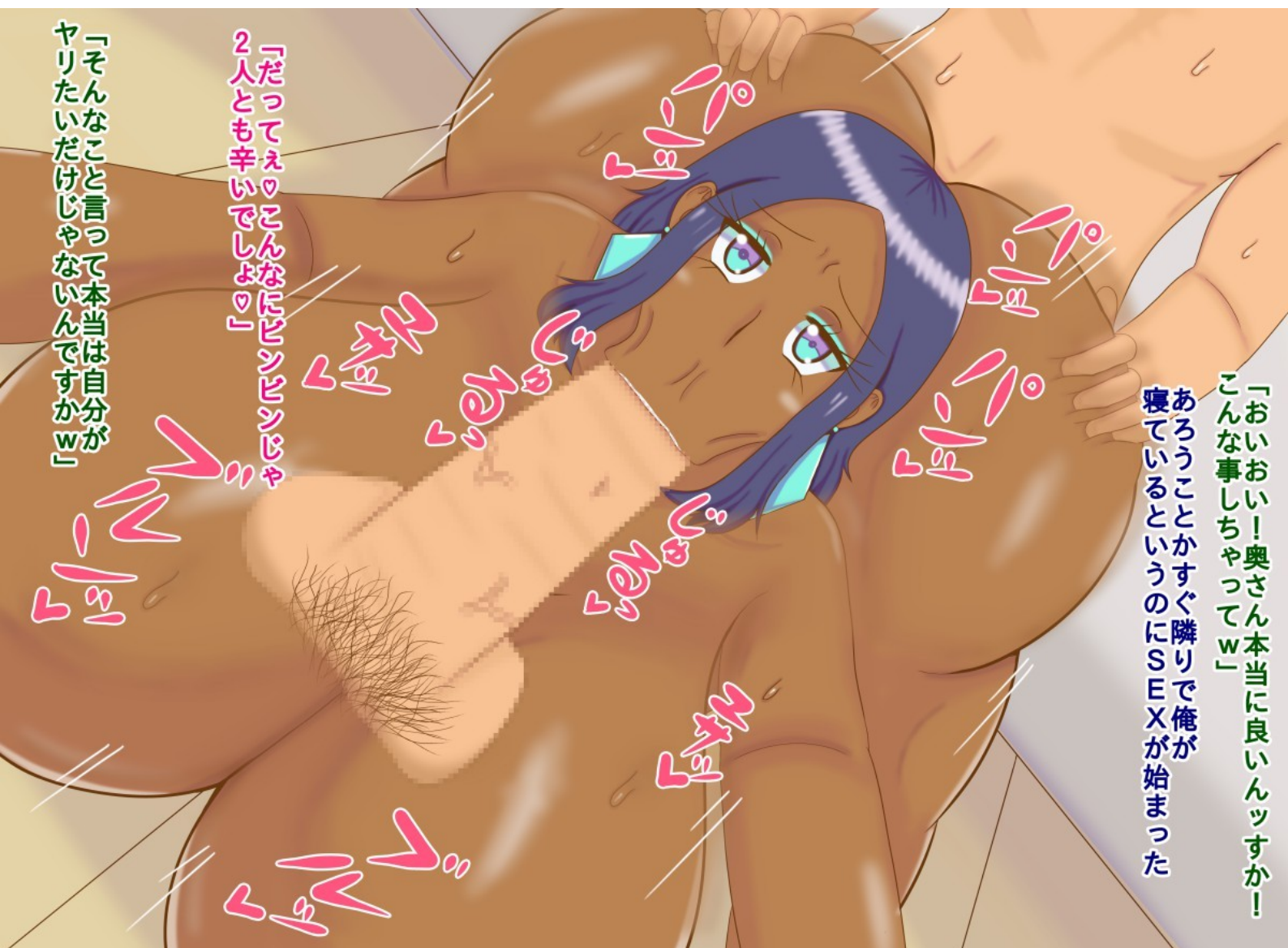


「おいおい！奥さん本当に良いんツすか！
こんな事しちゃってw」

あろうことかすぐ隣りで俺が
寝ているというのにSEXが始まった

「だってえ♡こんなにピンピンじゃ
2人とも辛いでしょ♡」

「そんなこと言って本当は自分が
やりたいだけじゃないんですかw」



「うはっ♡マンコ濡れ濡れじゃないですかw
こんないい女と毎晩ヤレるなんて
マジでアイツ羨ましいぜ！」

友人である俺の妻を遠慮などせず
欲望のまま犯し始めた

「んっ♡んっ♡」

「バキュームフエラも
ヤバすぎw相当色んな男
イかせて来たんだろw」

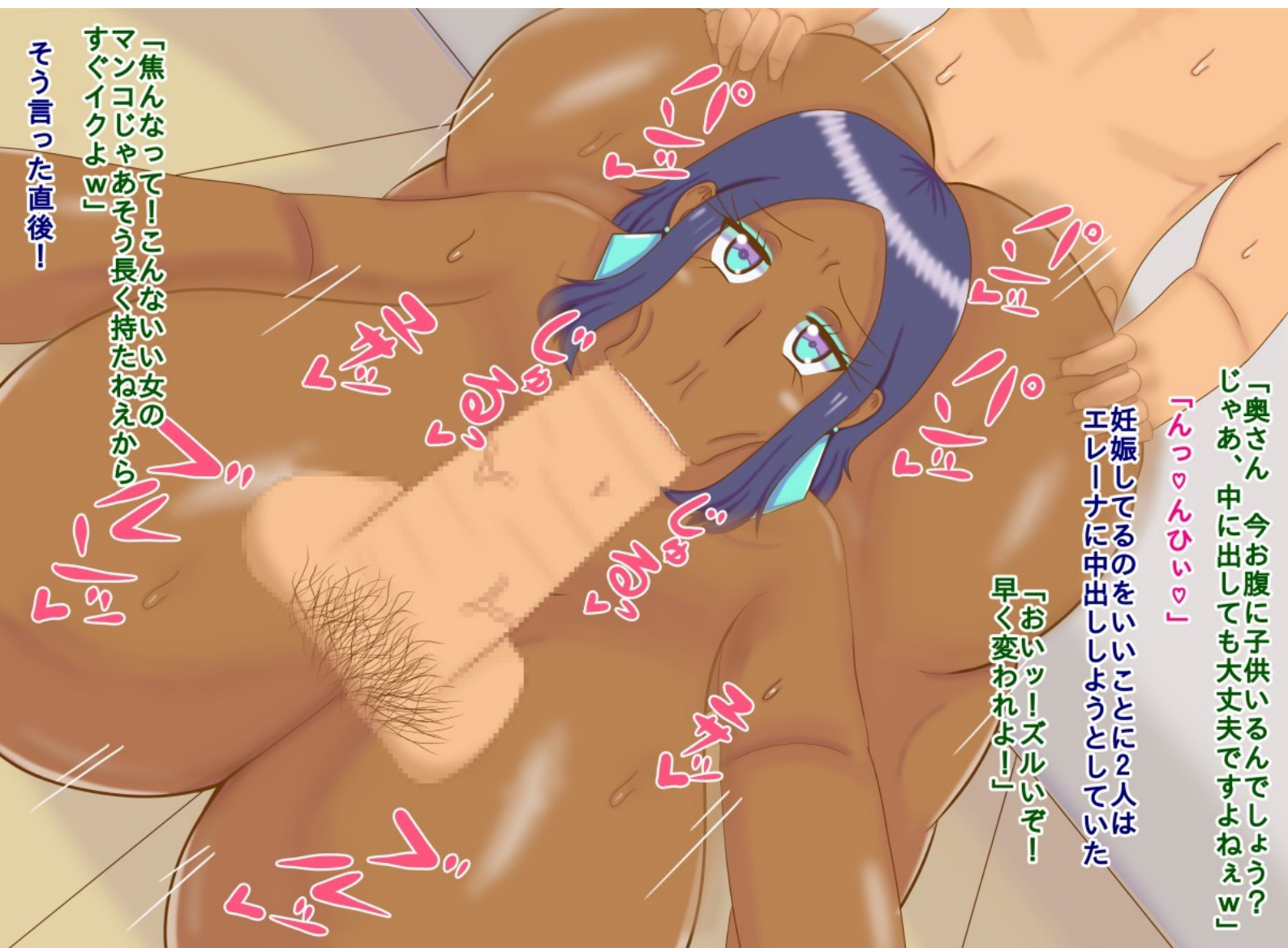
「奥さん 今お腹に子供いるんでしょ？
じゃあ、中に出しても大丈夫ですよねえw」

「んっ♡んひい♡」

妊娠してるのをいいことに2人は
エレーナに中出ししようとしていた

「おいッ！ズルいぞ！
早く変われよ！」

「焦っちゃって！こんないい女の
マンコじゃあそう長く持たねえから
すぐイクよw」
そう言った直後！



「あッ♡ あああ♡」

2人は欲望のまま射精し
エレーナの身体精液まみれになった



「奥さんマジ最高だよw」

しかしこれでは終わらず...

数分後
...

「お待たせ♡」

「おっ!!奥さん!その恰好は♡」

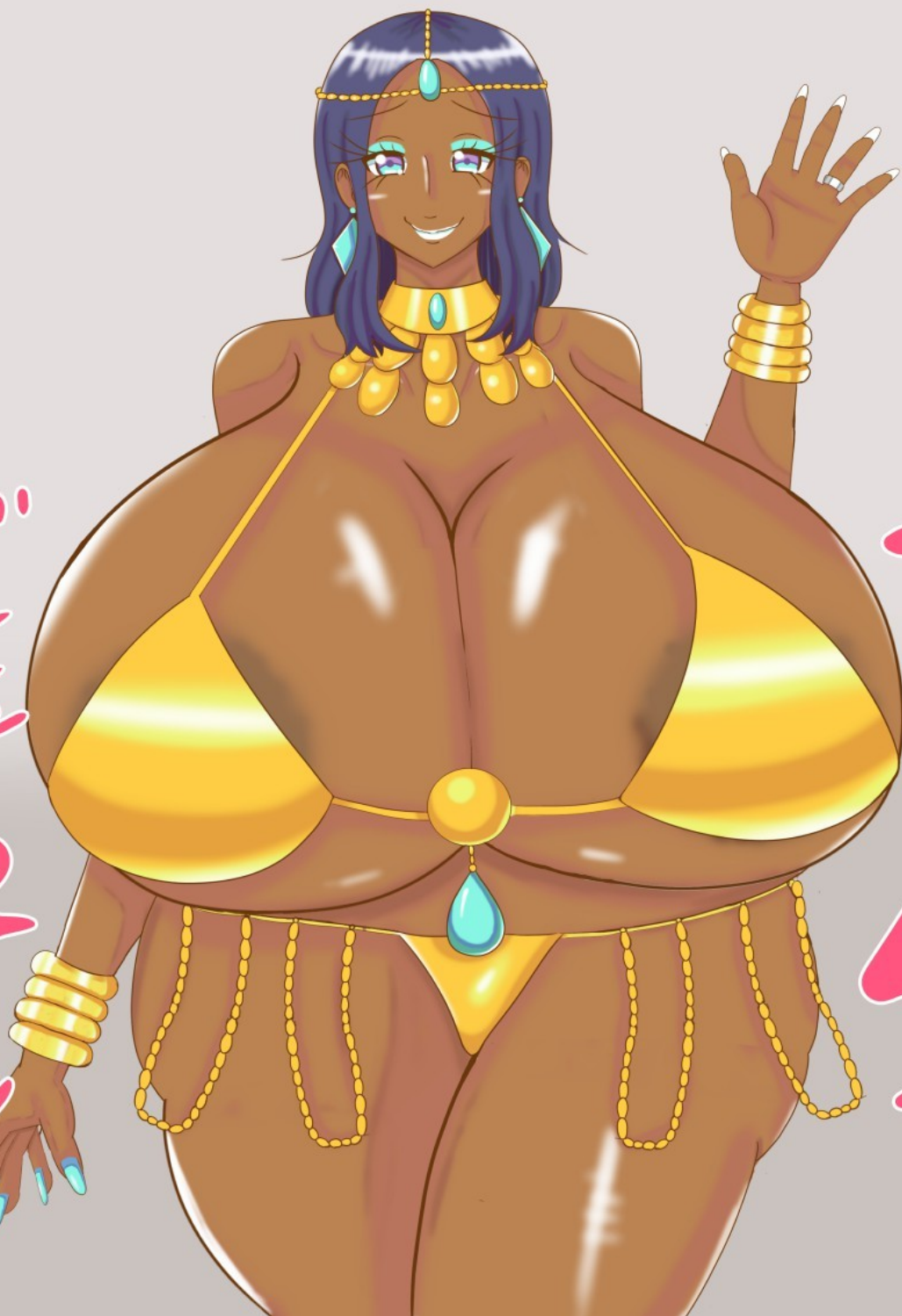
いやらしいコスチュームを
身に纏い2人の前に現れた

ブルンッ♡

ブルンッ♡

エサッ♡

ムチッ♡



「おもてなしのダンスで楽しんでくださーい♡」
そう言って大きな尻を下品に揺らし
誘惑するよう腰を動かし始めた



「おおっ!! スゲー!!」

へばっていた2人も、こんなにイヤらしいモノ
見せられ再びアソコに固さを取り戻し...

「自分から誘って来るなんて
覚悟は出来てるんでしょね奥さん！」

今度は2人で前後の穴を同時に犯し始めた

「あんっ♡ 2本同時なんてっ♡」

はっ♡

はっ♡

ブルン♡

ユザン♡

ブルン♡

パッ♡

ブルン♡

パッ♡

ブルン♡

パッ♡

パッ♡

「どうせ奥さんみたいなエロくて性欲が強い女じゃ
アイツ1人じゃ満足出来ないだろw」

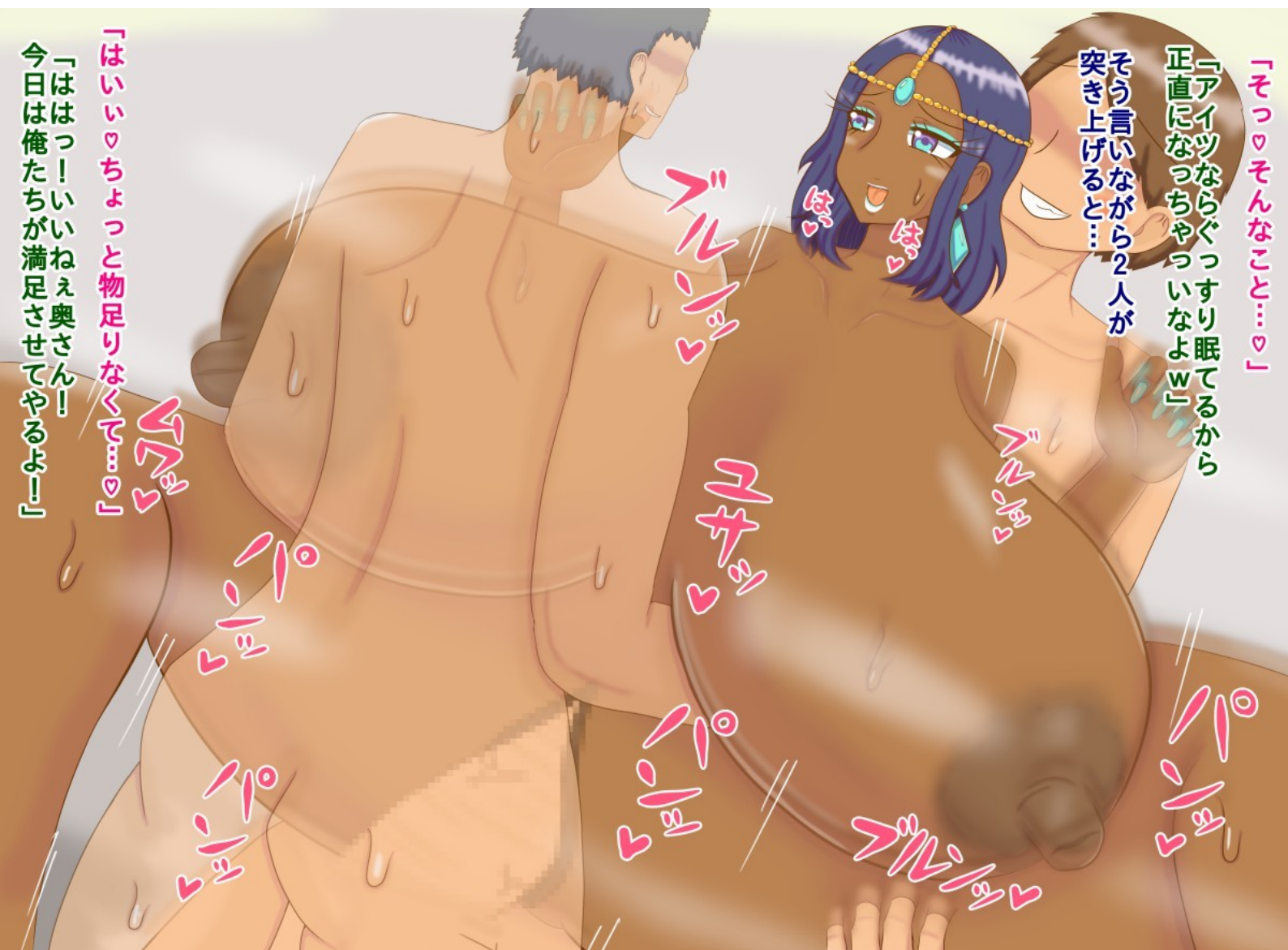
「そっ♡そんなこと…♡」

「アイツならぐっすり眠てるから
正直になっちゃついなよw」

そう言いながら2人が
突き上げると…

「はいい♡ちょっと物足りなくて…♡」

「ははっ！いいねえ奥さん！
今日は俺たちが満足させてやるよ！」



「あんっ♡ああっ♡」

2人に突き上げられ
艶っぽい声で喘ぐエレーナ

「後ろの穴サイコーだよ奥さんw」

はっ♡
はっ♡

ブルン♡

コサッ♡

ブルン♡

パッ♡

ブルン♡

パッ♡

「両穴犯されてこんなに濡らすなんてw
やっぱり淫乱女だなあ奥さん」

「あんっ♡はいっ♡♡」

2人はエレーナを玩具のように扱った

パッ♡

パッ♡

パッ♡

「淫乱女にはしっかりと褒めやらねえとなw
濃い出すからしっかりと受け止め！」

「あっ♡ああっ…♡」

2人はエレーナの両穴に
再び盛大に射精した

「はあはあ…最高だよ奥さんw」

ビクッ♡

ビクッ♡

ムクッ♡

ビクッ♡

ムクッ♡

ビクッ♡

「アイツが起きるまで相手してやるから
覚悟してくださいよw」

「はっ♡はいい♡おねがいますっ♡」

その後、明け方まで3人はSEXを続けた…





#03 近所の小○生と...

とある日の事

僕は学校から帰ると鍵を忘れた事に気が付いた



両親は共働きで遅くにならないと帰って来ない
雨降る中家の前で座り込んでいると・・・

「あら？君大丈夫？」

話しかけて来たのは
近所に住むエレナさんだった
事情を説明すると…

ボテッ♡

「それじゃあお父さんとお母さんが
帰って来るまで家に来る？」

お言葉に甘えてお家にお邪魔すると…



「雨で体冷えたでしょ♡一緒に温まろうねえ♡」

そう言って一緒にお風呂に入ることになったのだが
年頃の僕がエレーナさんみたいなキレイな人と
一緒にお風呂に入れば当然下半身が反応してしまい
それに気付いたのか…

「アレ♡ココ固くなってるね♡
Hな事考えているでしょう♡」

「えっ!! いやっ! その…」
恥ずかしさの余り言い訳しようとしたが

「ウフフ♡しょうがないわね♡こっち来て♡」



「ウフフ♡おませさんね♡
今日だけ特別よ♡」

そう言ってエレーナさんは僕に
覆いかぶさりその巨大すぎるオッパイで
僕のペニスをスッポリと包み込んだ

「あッ♡あああ…♡」
挟まれただけでイキそうになってしまう

「もうっ♡そんな声出しちゃって♡
まだまだこれからよ♡」

そう言ってオッパイを動かし始めると…!!



「あっ♡あぁ♡」
あまりの気持ち良さに
思わず声が出てしまった

「どお♡私のパイズリ♡
気持ちいいでしょ♡」

「はっ♡はっ♡」

子供の僕にとって刺激が強すぎて
すぐに限界を迎えそうになった
エレーナさんもそれに気付いたのか

「我慢しないでイッパイ
出しちゃいなさい♡」

そう言われた次の瞬間！



目掛けて勢いよく射精してしまった……



「何へばってるの♡まだこれからよ♡」

「あんなに出したのに
もうこんなにギンギンじゃない♡」

「あッ♡あのッ♡次は
何をするんですか♡」
僕は恐る恐る尋ねると

「ふふっ♡分かってるくせに♡君を一人前の男にしてあげるのよ♡」

そう言って僕のペニスを優しく握ると！



「あッ♡あぁっ♡」
導かれるままエレーナさんの
膣内に入ってしまった

「うふふっ♡これで童貞卒業ね♡」

膣内はヌルヌルして温かくさっき出し
たばかりなのに今にも射精してしまいそうだ
それに気付いたエレーナさんは今度は

「まだイっちゃダメよ♡
これからが本番なんだから♡」



「あつ♡あつ♡」
エレーナさんは身体を上下に動かし始め
僕のおチンチン刺激して来た

「どお♡初体験の感触は♡」

射精を堪えるのに必死で
質問に答えるどころではなかった

目の前で巨大なオッパイを惜しげもなく
揺らし膣内はギュウギュウと締め付け
全身を使い射精を促してきた

子供の僕がそんな快楽に耐えられるわけもなく…



挿入してものの数秒で
膣の中に射精してしまっ
た……

「アレ♡もうイチちゃたのお？
ダメじゃない♡」

「♡ごめんなさいい…♡」

ム
フ
ッ

「まあ♡初めてにしては頑張ったほうね♡」

そう言って優しく受け止めてくれた

僕はお風呂を上がり先に部屋に
戻ってベッドで横になつて部屋に
余りの出来事と射精の疲労感でボー
ッとしてきた…
しているその後からエレーナさんが
やってきた…

「お待たせ♡」

「えっ!!」
現れたのは布面積の少ない
牛柄の水着に身を包んだエレーナさんだった

「どうかしらこの格好?」



肌かより何倍もイヤらしいその姿に
僕のおチンチンは再び固くなり始めた

「あら〜? 気に入ってくれたみたいね♡」

僕とエレーナさんは再びプレイを始めた
僕はその大きなオッパイに欲望のまま
むしゃぶり付き母乳をすすり

「ふふっ♡そんなにがつついちゃって♡
本当にオッパイが好きなのね♡」

こんな大きくて魅力的なオッパイ
男なら誰でも夢中になってしまう

エレーナさんはもう片方のオッパイで
僕のペニスをシゴき始めた



「んっ♡んっ♡」

エレーナさんの柔らかいオツパイと
母乳ローション手ヨキでさつきあれだけ
出したのに早くもイキそうになっ
てしまう

「もうヒクヒクさせちゃって♡
ほら♡遠慮しないで♡
出しちゃっていいのよ♡」

限界が近かった僕は
その甘い誘惑に勝てず！



「んっ♡んっ♡」
またエレーナさんの大きなオッパイ
目掛け射精してしまった！

「スッゴイ♡あんなに出したのに
まだこんなにでるなんて♡
若いってスゴいのね♡」

自分でも驚くほど射精量だった
しかし…

「でもお♡まだ固いわね♡
もうちょっとしよっか♡」

そう言って今度は寝室に場所を移し



「ほっ！ホントにいいんですか？」
少し冷静になった僕はお腹の
赤ちゃんが心配になった
しかしエレナさんは：
「散々ヤツといてなに今更遠慮してるのよ♡
それにそんなにピンピンに
しちゃって我慢できる？」

彼女の言う通り僕のおチンチンは
固く膨張していた自分の性欲を抑えられず

ムチッ♡

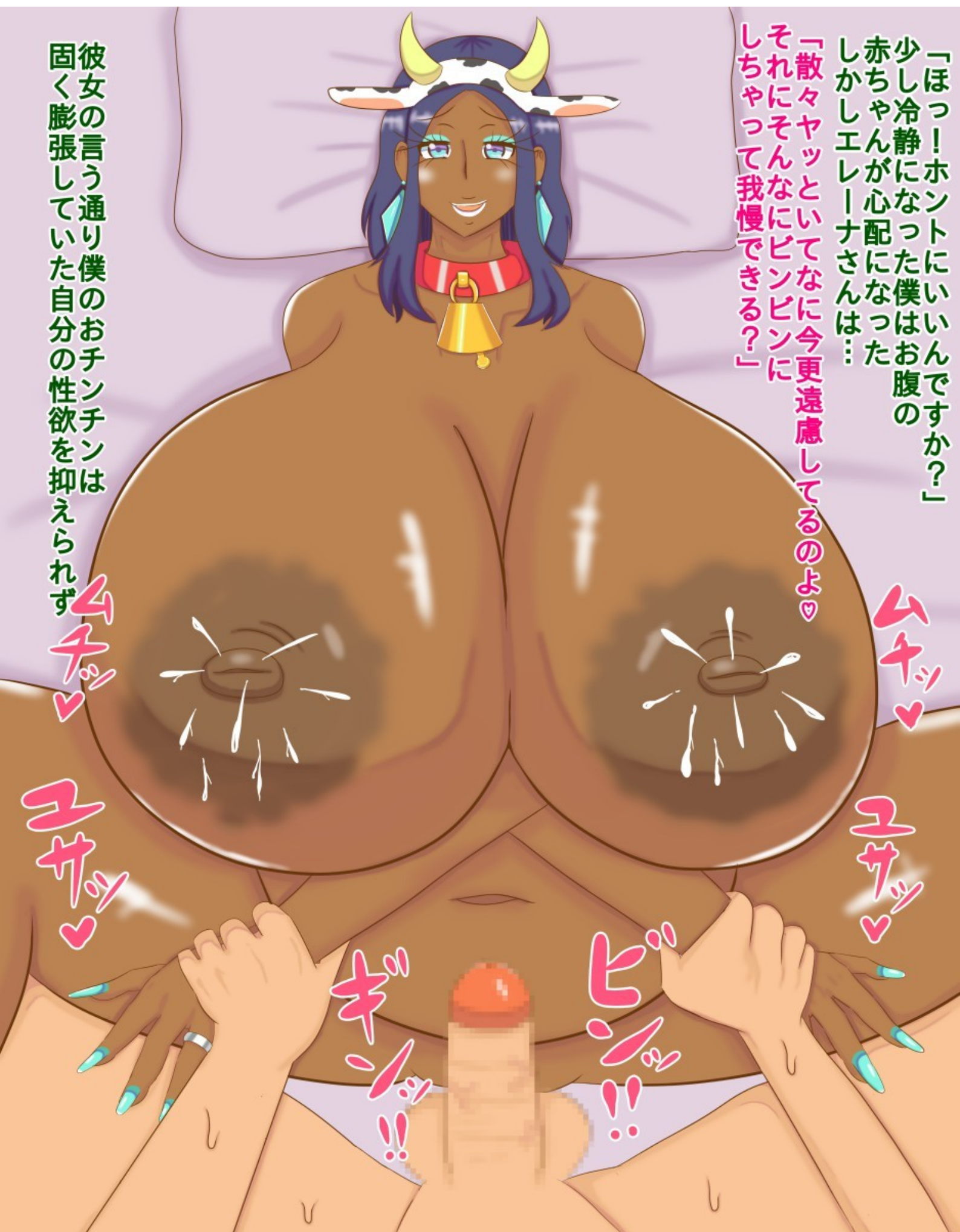
ユザッ♡

ムチッ♡

ユザッ♡

ギン！！

ビン！！



「あっ♡あっ♡」

突く度にエレーナさんはイヤらしい
喘ぎ声を上げ巨大な胸を
縦横無尽に揺らし僕の興奮を掻き立てる

「上手よっ♡その調子で突いてえ♡」



褒められて嬉しくなっちゃってしまい
「エレーナさんっ！もうイキそうですっ！」

「さっきあんなに出したんだからあ♡
今回はもうちょっと我慢しなさい♡」

「でっ！でもお…♡」
僕はいい終わる前に！



「あっ♡ああ…♡」
エレーナさんのポテ腹に
最後の一滴まで注いでしまった…

「もうっ♡こんなに射精する
なんて将来有望ね♡」

全てを出し切ってフニャフニャになった
ペニスを膣内から抜いた



「赤ちゃん産まれたら
もつと立派な男の子にな
れるように練習してあげるから
また家にいらっしやい♡」

「はっ！はい！」
そんな約束を交わして
僕の初体験は終わった…



An illustration of a couple in a sexual embrace. The woman is lying on her back, and the man is on top of her. They are both wearing dark, circular, textured condoms. The woman's hand is visible, with blue nail polish. The background is a soft pink. A large, bold, pink text with a white outline is centered over the image.

#04 夫と旅行先でSEX

エレーナの出産後しばらくしての事
長い妊娠期間の労いも兼ねて
両親に子供を預けて久しぶりに
2人で旅行に来ていた

「エレーナ遅いな…」

そう思って先にビーチで待っていると

「お待たせ♡」

「ゴメン♡更衣室混んでて♡」

水着姿のエレーナがやって来た
その姿は我が妻ながら圧巻だった



妊娠中は大事を取って一切
性行為をしていなかった
俺のブルテージは高まっており
海に入るやいなや...

「ちょーちょっとダーリンどうしたの♡」

「なあ、久しぶりなんだしいいだろw」
海の中で下半身を出し
エレーナの後ろから抱きついた

「こんなところでしたら誰かに
見られるかもしれないわよ?」

「そんな時はそんな時だw」
溜まった欲求を抑えられず
有無を言わせず挿入した



久しぶりのSEXで改めて感動を覚えた

「もう♡ ガッツキすぎよ♡」



そんなこと言ってもずっと禁欲してたんだ
今日はトコトン満足させて貰うつもりだ

「ほらー出すぞー!」

久しぶりSEXと大自然という解放敵な
シチュエーションですぐに射精してしまった
「最高だよエレーナ♡」

「んっ♡もう♡こんなに出しちゃって♡」

チャッ♡
♡

グニャ♡
♡

ビュッ♡
♡

ビュッ♡
♡

グニャ♡
♡

ムチャ♡
♡

なんだかんだ言ってエレーナも
悪い気はしてないようだ
そんな姿を見た俺の興奮は収まらず



今度は岩陰に隠れて今度はパイズリだ

「もうっ♡ホントにこんな所でするの？
誰かに見られるかもよ♡」

「その方が興奮するだろうw」
性欲を抑えられずエレーナの
乳マンコにペニスを突っ込んだ



「おっ♡おっ♡」
やはりエレナのパイズリは
暴力的なまでの気持ち良さだった

「さっきあんなに出したのに
もうこんなにくしちやって♡
ホント困った人ね♡」

そう言いながらも献身的に巨大な胸でシゴいてくれる
1度目射精で敏感になった俺のペニスは程なくして



「あっ♡スッゴいい♡」

エレーナの乳マンコに搾り取られるように
大量に射精してしまった…



「ホントっ♡相変わらず元気ねえ♡」

しかしそれでも俺の性欲は収まらず…



「もう♡ ちよつとは落ち着いて♡」
そんな静止は聞かずに青空の下
糸纏わぬ姿で交尾を始めた

「あつ♡ああつ♡」
イヤらしい喘ぎ声と肉がぶつかり
合う音が当たりに響いた

「あんっ♡こんなに♡音立てたら♡
本当に誰かに気付かれちゃう♡」

彼女の予想は現実のものとなり



(おいっ見てみるよ！)

数人の男の声がし
こちらに気付いたようだ

(おいスゲえぞー！やってるねw)
パシヤ！

少し離れた所でシャッター音がした
「ほら、見られてるぞw」

「あんっ♡ダメえ♡」

そんな姿を見た俺の興奮はピークに達し！



ギャラリイがいるというのにお互い
恥ずかしいくらい精液と愛液を
まき散らしながら絶頂期した

「あッ♡あぁッ…♡」



これ以上は騒ぎになるので
フラフラのエレーナを抱え宿まで戻った

宿に戻った俺たちは部屋の露天風呂にいた

「もうっ♡ 恥ずかしかったじゃない♡」

「悪い悪いw」
「痴話ケンカをしていた」
「でもエレーナだったって」
「まんざらでもない感じだったけどw」

「それは…♡」



反応からして本気で怒っているわけではなさそうだ
そんな姿を見て再び興奮して来た俺は
「なあ、もう一回しないか？」

「もう♡しようがないわね♡」
そう言っていると岩に手を付き…



チャポッ♡

アッ♡

「ほくら♡来て♡」

エレーナは大きな尻を
こちらに向けて準備万端だ

「それじゃあ遠慮なくw」
すっかり回復したペニスを挿入し



「あんっ♡あぁっ♡」

再び肉と肉がぶつかり合う音を響かせた
「はっ!はっ!こんだけ開放的な場所だ
もしかしたらまた覗かれてるかもなw」

「そんなぁ♡ ダメえ…♡」

そう言いつつもアソコは
濡れ締付けは強くなる



「ほらっ！ほらっ！どうだ」
わざと音を響かせるように
強く腰を打ち付けた

「あっ♡ああ♡ダーリン
お願い♡早く来てえ♡」

更に自ら腰を動かし射精を促してくる
「ああ！中に出してやるからしっかり受け止める！」



「あんっ♡ああっ♡」

エレーナは閑静な夜に
イヤらしい喘ぎ声を響かせた

俺は膣内から逆流するほどの
精液を膣内に射精した
しかし夜はこれからが本番で…



「あっ♡ああっ♡」

部屋に戻っても相変わらず性欲は
収まらずSEX三昧だった
まるで繁殖期の動物が如く性をむさぼった

「ダーリン凄すぎる♡あんなに
出したのいい♡まだこんなにいい♡」



「ねえ♡ダーリン♡私早く2人目
欲しいの♡だからお願いい♡」

先日出産したばかりだというのに
もう2人目のおねだりか
しかし男としてせがまれたら悪い気はしない

「ああ！絶対に孕ませてやるからな
しっかり受け止める！」
そう言っでラストスパートをかけると！



「はあ、はあ…」
金玉が空っぽになる勢いで射精し
膈内をこれでもかというほど精液で満たした

「あっ♡スゴい♡…」



流石の俺もヘトヘトだったのが
その甲斐あって数ヶ月念願の
2人目を授かる事となったのだが…



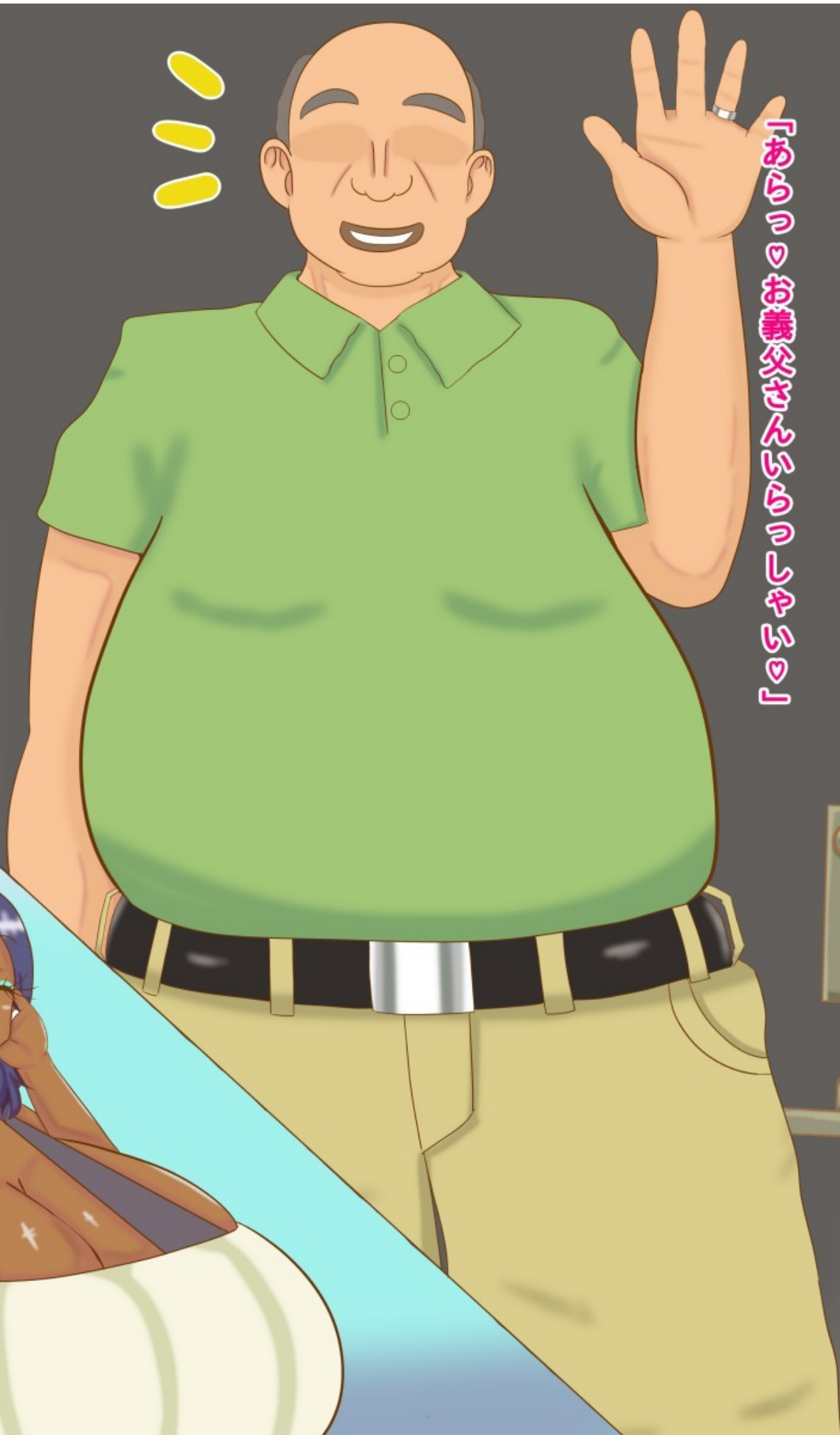
これは先日の旅行に
行く前日の出来事！

「エレーナちゃん 遊びに来たよ♪」

「あらっ♡お義父さんいらっしやい♡」

この人はダーリンお父さん
私にとって義理の父親にあたる

子供を預かって来てくれたため
我が家にやって来たのだが…



「いやあ、しばらく見ないうちに
大きくなつたね♡」

初孫を愛でるお義父さん

これだけ見れば
いいおじいちゃんなのだが
しかし…



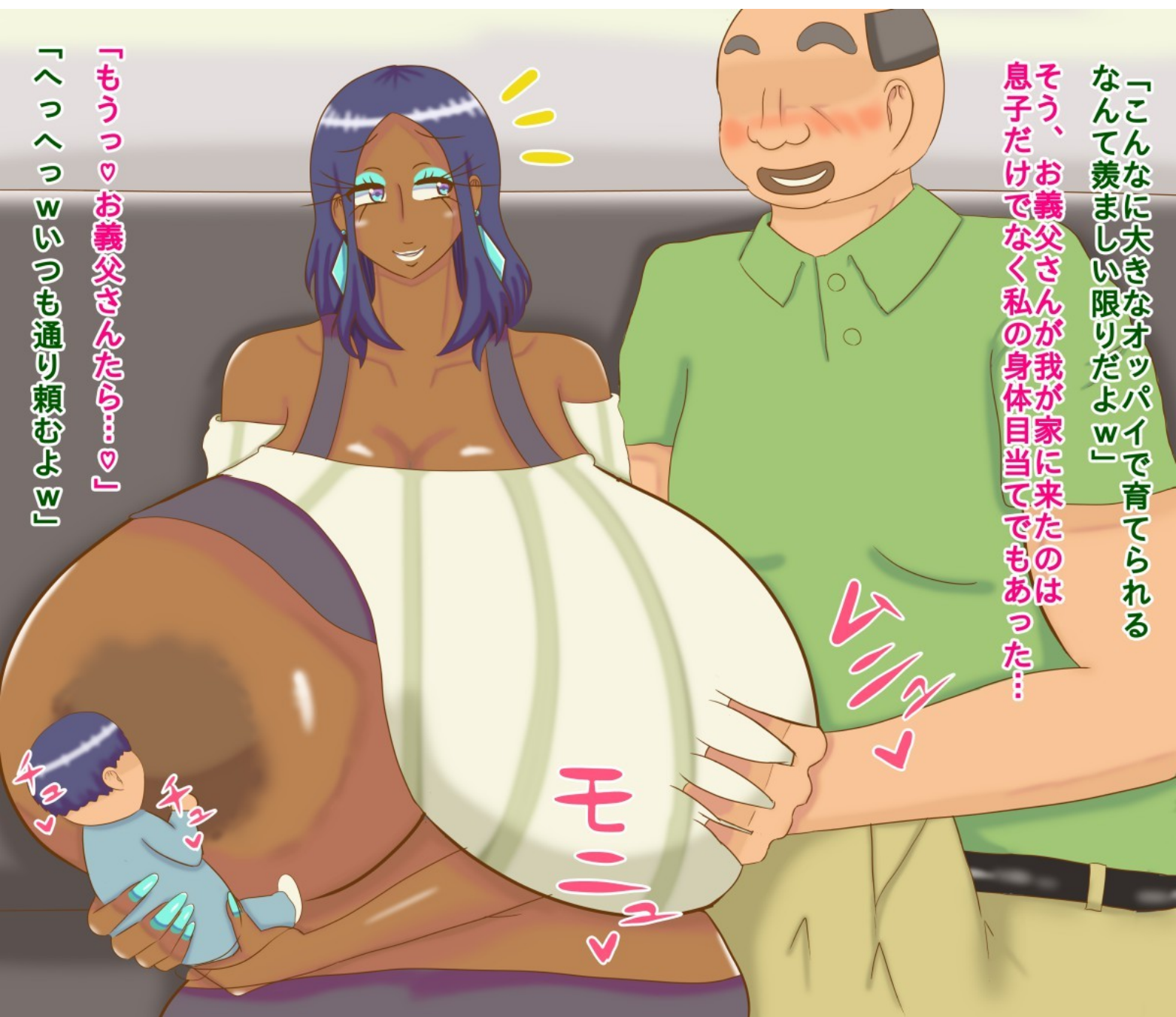
「こんなに大きなオッパイで育てられる
なんて羨ましい限りだよw」

そう、お義父さんが我が家に来たのは
息子だけでなく私の身体目当てでもあった…！

レリッ
♡

モリッ
♡

「もうっ♡お義父さんたら…♡」
「へっへっwいつも通り頼むよw」



「相変わらず大迫力だなこの胸w」
そう、お義父さんとするのは
今日が初めてではなかった
既にダーリンに内緒で
数回関係を持っていたのだ

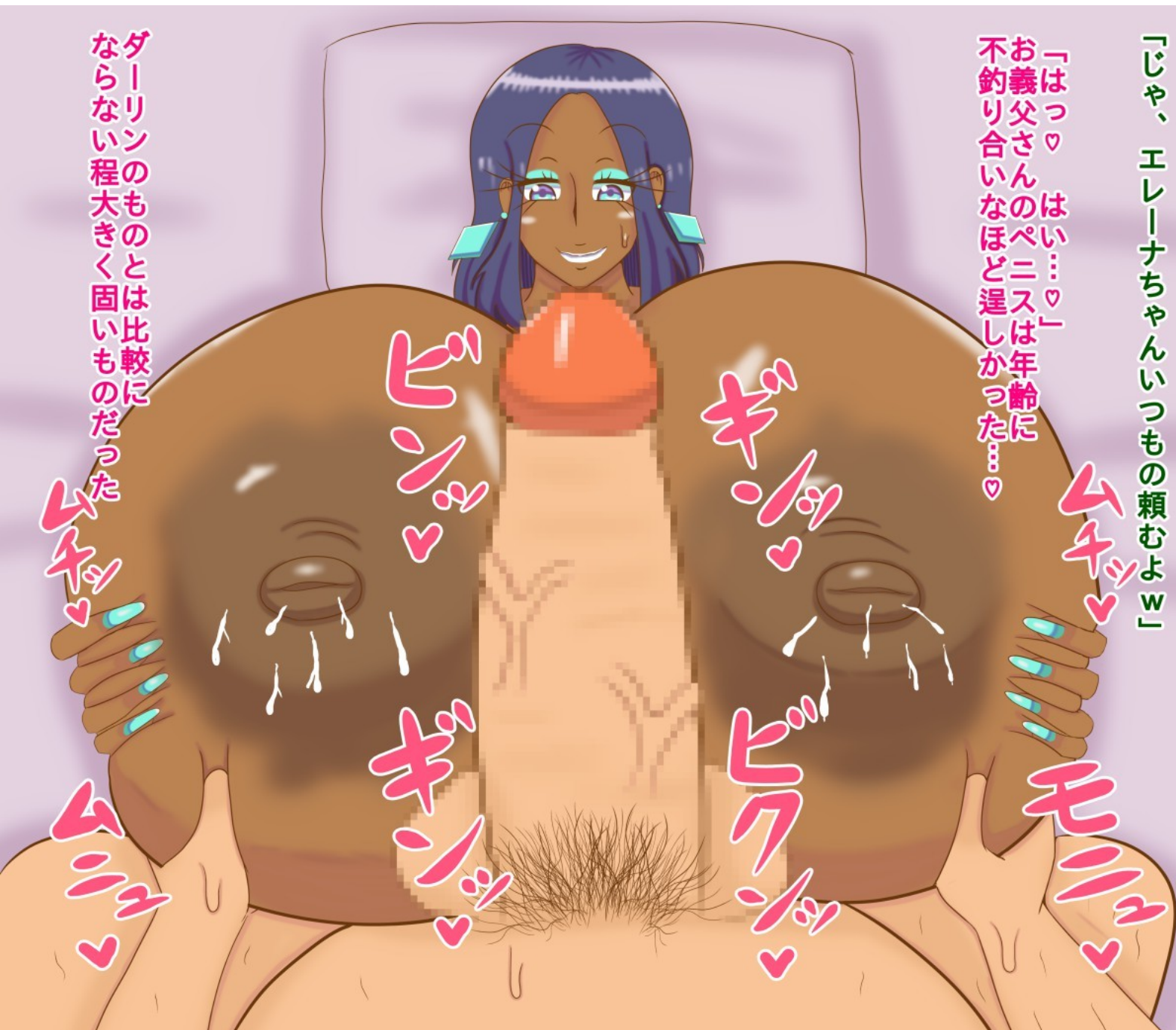
「しかもこんな母乳が出るなんて
本物のホルスタインみたいだなw」

「もうっ♡お義父さんたら…♡」
義親子でこんな関係イケナイのに
やめられない理由があった
それは…♡



「じゃ、エレーナちゃんいつもの頼むよw」

「はっ♡ はい…♡」
お義父さんのペニスは年齢に
不釣り合いなほど逞しかった…♡



ダーリンのものとは比較に
ならない程大きく固いものだった

ムチッ♡

ムニョ♡

ビン♡

ギン♡

ギン♡

ビク♡

ムチッ♡

モニョ♡

「おほっ♡ 相変わらず
柔らかいなこのオッパイはw」

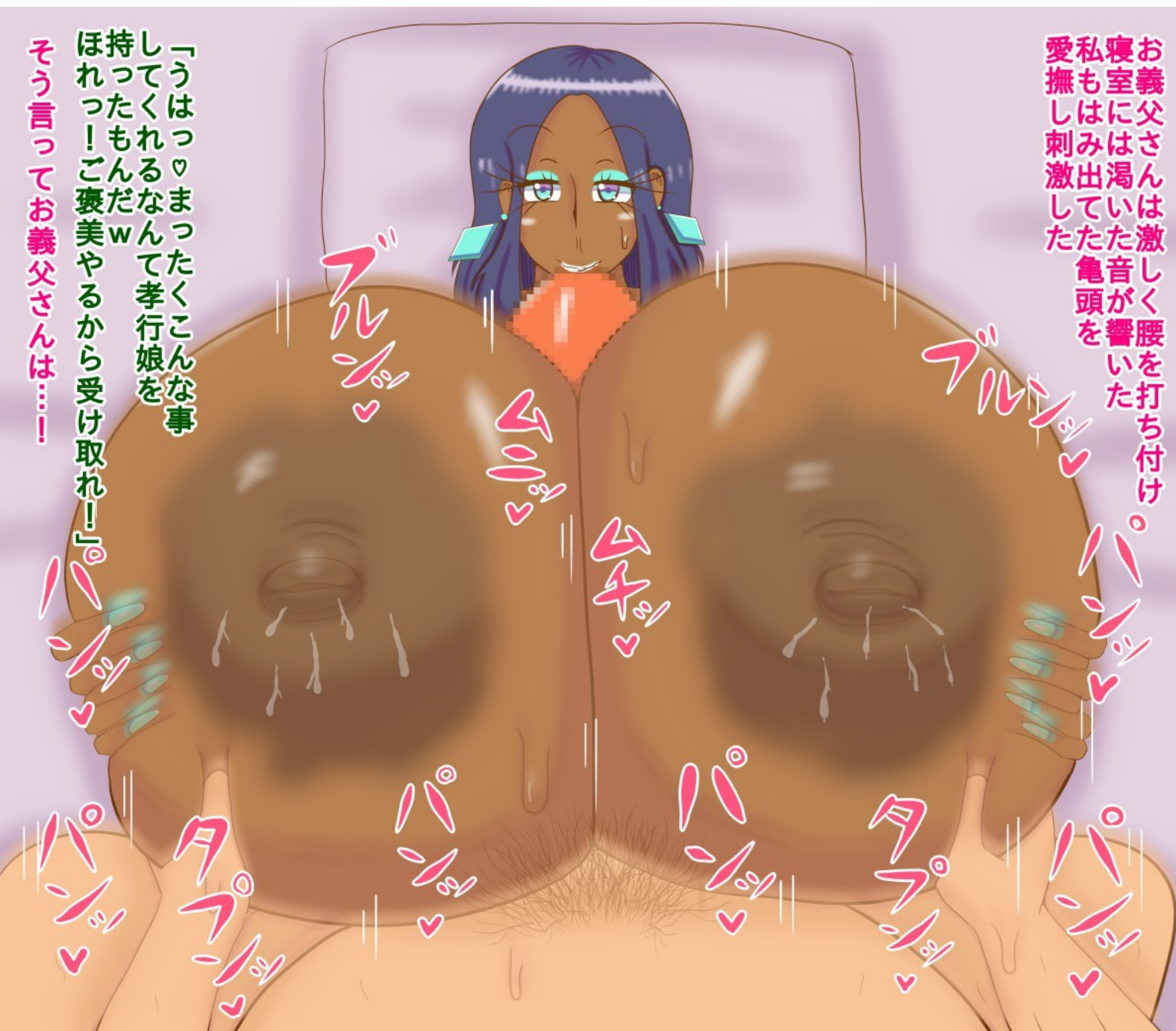
ほとんどの男性のペニスは私の胸に
スッポリ隠れてしまうのに
お義父さんのは余裕ではみ出してしまう♡

「それじゃあ動かすぞ!」



お義父さんは激しく腰を打ち付け。
寝室にはみ出たた亀頭を
私もはみ出たた亀頭を
愛撫し刺激した

「うはっ♡まったくこんな事
してくれるなんて孝行娘を
持ったもんだw
ほれっ！ご褒美やるから受け取れ！」
そう言ってお義父さんは……！



「おお♡濃厚なのが出たぞw」

お義父さん精液は
私の顔を覆いつくす程
射精し一瞬で部屋に臭いが
充満するほどだった

しかし、この人にとって
これは前戯にしか過ぎなかった…♡



「ふひひっW 相変わらず、
締まりの良いマンコだなW」

「それはお義父さんの
義親子だというのに
当然のようにSEXが始まった
のが大きいからあ♡」

「嬉しいこと言ってくれるねW
それじゃあ動かすぞW」

私はこの関係を拒まなかった
お義父さんの巨大なペニスを
気に入ってしまったのだ…♡



「ほれっ！どうだ！」

「はひい♡」
お義父さんの大きすぎるペニスは
一突きする度に私の一番奥まで余裕で届いた

ダーリンはもちろん今までの男性でも
これ程の物はそうそういない



「エレーナちゃんワシはもう1人孫の顔が見たいなw今度は女の子がいいなあw」

「はひい♡」
その言葉が意味するのは当然…♡

「ほれっ！中に出すからしっかり受け止めるよ！」
そう言って腰の動きを速め！



「おっ♡おおお…♡」
さっき大量に出したのにそれ以上の
精液を膣内に射精された

「久しぶりだから年甲斐もなく
ハッスルしてしまったよw」

そう言っている間にも巨大な
ペニスからドクドクと注がれている
「流石に疲れたw
少し休ませてもらうよ」



お義父さんが休んでる間
私は次の準備をした

「お待たせしましたあ〜♡」

「おおっ！ なんちゅう格好だw」

ダンス衣装を纏いお義父さんの前現れた



「お義父さんにダンスで
おもてなししようと思いで
そして私はベッドの上で」

「どうですかぁ♡お義父さん♡」
自分のイヤらしい身体を揺らし
お義父さんを誘惑した

「こんなもの見せられたら
もうひと頑張りせねばw」

そう言うとお義父さんのアソコは
再び固さを取り戻し…



お義父さんにまたがりSEXを再開した

「まったく！義父を誘惑するなんて
とんだ淫乱義娘を貰ったもんだw」

「はいいい♡
申し訳ございませんっ♡」

「しっかり騎してやらんなw」

そう言々と固くて太いモノで下から突き上げてきた

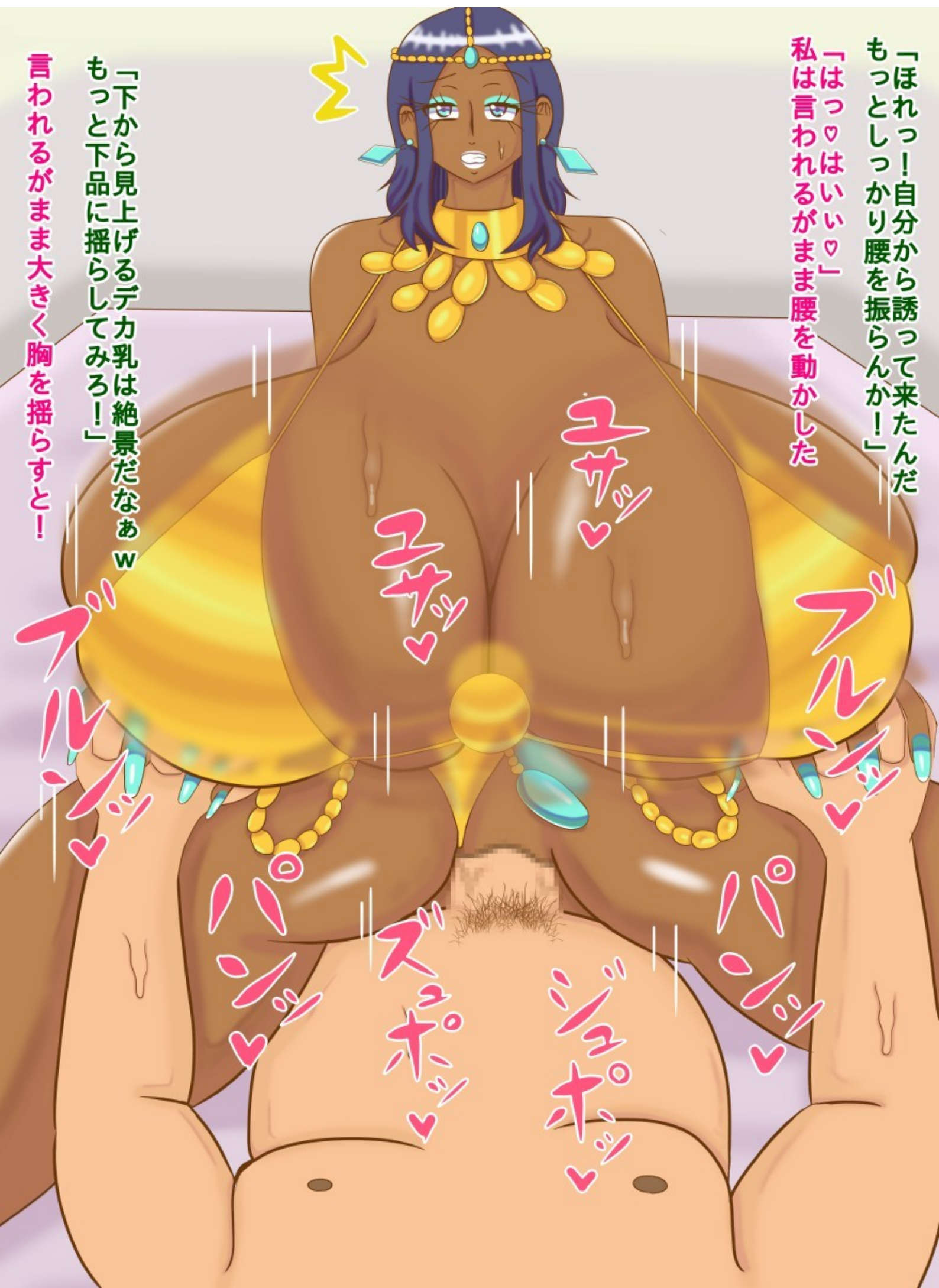


「ほれっ！自分から誘って来たんだ
もっとしっかり腰を振らんか！」

「はっ♡はいい♡」
私は言われるがまま腰を動かした

「下から見上げるデカ乳は絶景だなあw
もっと下品に揺らしてみろ！」

言われるがまま大きく胸を揺らすと！



「おおっ！これはスゴい！」

小さかった衣装は限界に達して
破け私の胸が露わになった

「こんな下品な乳で年寄りを
たぶらかしおって！お仕置が必要だなw」
お義父さんの興奮は加速し！



「おっ！おおお！出た出たw」

また膣内に濃厚な精液を
ドクドク注がれた…♡

「エレーナちゃんの身体は
何発やっても飽きないなw」
その言葉通りまだまだ終わらず…



「ほれっ！ほれっ！もつと腰振って
親子孝行しなさい！」

（嘘でしょ…♡こんなにスゴいなんてっ…♡）
お義父さんの性欲は留まるところか更に加速した

「エレナちゃんどうして欲しいか
自分の口では言ってごらんw」

そうお義父さんは強要して来た…

「お義父さんのお濃厚ザーメンでえっ
は孕ましてくたさいい♡」
はしたなく媚びるようにせがんだ

「ははっwまったくけしからん
売女義娘を持ったもんだwそ
れじゃあお望み通り出してやるか！」

そして次の瞬間！



「んっ♡んっ♡」
今日数回目だというのに衰えを
感じさせない射精で膣内が満たされた

「ほれっほれっwwワシの子
孕みたいんだろw」
射精後もわざとらしい膣内で
ネチネチ擦りつけきた…♡



「だったら頑張ってさっさとワシを射精させたらどうだw」

エサッ

ラブ・レ・レ♡

ブリンッ

どうやらお義父さんは止める気はまったくないようだ
私は更に腰を強く叩きつけるように動かし

「そんなに腰振ってつくづく
売女だなあエレナちゃんはw」

「お願いしますっ♡」
ダーリンにばれるわけにはいかない
どんな手を使ってでも射精を促したい

「ふっふっw義父にせがむとは
どこまでも売女だなw
お望み通り出してやるから孕めよ！」

腰の動きをもう一段階上げラストスパートをかけると！



「あつ♡あつ♡」
子宮に濃厚な精液を注がれた

「ほれっほれっ最後の
一滴まで受け取りなさいw」

「あつ♡あひがとうございますう♡」
私はアヘリなお義父さんの
精液を子宮で受け止めた

この数ヶ月後、当然私は妊娠した
ダーリンの子かお義父さんの子は未だわからないが…♡

